

スタンダードチャータード PLC

2014 年度中間期業績予想

2014年7月1日

(本資料は、ロンドンにて2014年6月26日付で配信した発表資料の参考訳です。)

スタンダードチャータードPLC(その子会社を含む。以下、「当行グループ」「グループ」または「当行」)は、2014年度6月期中間決算報告に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象として説明会を予定しております。当文書では、当該説明会にてご報告する内容の詳細について述べさせていただきます。

当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズは、次のように述べています。

「当期の業績は、金融市場を中心として厳しい市場環境が続いたことから、不本意な結果となりました。しかし、新経営戦略は順調に進展しており、極めて厳格なコスト管理・非中核事業の売却・資本効率の最適化を通して厳しい経営環境に適切に対応しています。厳しい状況にありますが、当行は株主利益を生み出す事業の発展に引き続き全力を挙げており、進出先市場にある商機を最大限に活かすべく、経営基盤強化を進めています。」

以下、特に明記のない限り、前年同期等との比較のすべてにおいて、英国銀行税の影響・自己クレジット調整・韓国における営業権(のれん代)減損は含まれていません。

2014年1月、当行は4月1日付の組織改編を発表しました。当発表では、事業・地域別の業績に関する最新情報をお伝えします。当行グループの2014年度上半期決算発表は8月を予定しています。

グループ

当行グループにおいて、ほとんどの事業は引き続き予想範囲内の業績で推移しています。主な例外はフィナンシャルマーケット事業で、業界全体が直面している厳しい外部環境の影響を引き続き受けています。

2014年度上半期の業績見通しは2013年度下半期を上回る水準にあります。2014年度上半期の収益については、前年同期比で1桁台半ばの減少(為替変動の影響を除くと1桁台前半の減少)を予想しています。

中国・アフリカなどの市場では増収が続いていますが、業績が低迷するインド・韓国・シンガポールの影響により、相殺されています。

厳格なコスト管理を引き続き徹底しており、当行進出先市場における投資の継続、規制・コンプライアンスに伴うコスト増、人件費・その他経費にかかるインフレの影響にもかかわらず、全体のコストは前年同期比で若干の増加にとどまる見通しです。

クレジットコスト(減損費用)は、予想通り2014年度上半期に前年同期比で10%台後半の増加となる見通しです。資産の質は健全性が維持されていますが、前回お知らせしたように、インドと商品(コモディティ)のリスクについては引き続き注意してまいります。

その他の減損費用には、一部の戦略的投資の評価損に伴う約7,500万米ドルの減損費用が含まれています。

以上のような動きを反映し、2014年度上半期の営業利益は2013年度下半期を上回るものの、好調だった同年度上半期比では約20%の減益となる見通しです。

顧客向け貸付金は増加が続いており、2014年上半期末の残高は2013年末比で1桁台前半の伸びが予想されます。バランスシートについては、一部のアジア諸国の不動産価格沈静化措置、リスク加重資産(RWA)管理の強化に伴うローリターン、個人顧客向け無担保融資のリスク軽減の継続を受け、拡大が抑えられました。顧客預金残高は、2013年度末比でほぼ横ばいとなっています。

当行のバーゼルIII自己資本比率規制に基づく、リスク加重資産(RWA)の2014年当初以来の増加率は、1桁台半と予想されます。これには主に、デフォルト時エクスポージャー(EAD)計算式やクレジットマイグレーション(信用リスクの遷移の可能性)などのリスクモデルに関する規制変更の動きが反映されています。リスク加重資産(RWA)は増加しましたが、その管理は十分に強化されています。

当行のバランスシートは引き続き極めて盤石で、流動性が非常に高く、十分に多様化され、高い自己資本比率を堅持しています。

事業別収益

トランザクションバンキング事業の収益は、前年同期比で1桁台前半の減少を予想しています。利鞘は前年同期を下回った水準にありますが、トレードファイナンスの利鞘は2014年に入って改善に向かっています。キャッシュマネジメントの利鞘は2013年末以来の水準で安定しています。トレードファイナンスの平均残高は、前年同期比で増えていますが、2014年度は収益率最適化を追求する当行の経営戦略を反映し、年初来減少傾向にあります。キャッシュマネジメントの平均残高も前年同期比では増えていますが、年初来では横ばいとなっています。

フィナンシャルマーケット事業は、当行全体を通し収益面で引き続き厳しい状況に置かれています。その結果、2014年度上半期の収益は前年同期比で約20%の減少が予想されます。業界全体を通して、規制変更・構造変化・循環的要因が重なったことから、市場ボラティリティの低下、スプレッドの縮小、出来高の低迷に見舞われました。その結果、特に金利・為替の収益が影響を受けています。自己勘定収益が大幅な減少となる一方、フィナンシャルマーケット事業のほぼ9割を占める顧客収益の減少率は同事業総収益の減小率の約半分にとどまりました。金利収益は、出来高の減少・スプレッドの圧縮を受け、為替収益は出来高増加の効果をスプレッド圧縮が相殺したため、いずれも低迷が続きました。

コーポレートファイナンス事業の収益は、前年同期比で概ね横ばいになる見通しです。いくつかの市場における政情不安は取引執行の遅延を引き起こしましたが、パイプライン件数は順調に推移しています。

ウェルスマネジメント事業の収益は、特に保険商品販売の幅広い伸びを受け、前年同期比で1桁台半ばの増加

が予想されます。

リテールプロダクツ事業の収益は、無担保ポートフォリオのリスク軽減の推進に加え、多くの市場における預金獲得競争の激化、不動産価格沈静化措置の影響を受け、前年同期比で 1 桁台半ばの減少となる見通しです。

ALM 収益は、金利収益の改善を反映し、大幅な増加が期待されています。

プリンシパルファイナンスの収益は前年同期比で 10%超の減少が予想されますが、その主たる要因は取引成立のタイミングのずれによるものです。

最後に

2014年度上半期業績の如何にかかわらず、主要市場における顧客リレーションシップの強化や一部市場におけるシェア拡大に見られるように、当行グループ全体としては強力な事業展開を続けています。コストとリスクは引き続き厳格に管理する一方、流動性が非常に高く、十分に多様化された盤石な自己資本に裏付けられたバランスシートを堅持しています。

今後はトランザクションバンキング事業の勢が増し、ウェルスマネジメント事業は最近締結したプルデンシャル PLC バンカシュランス業務協定の恩恵をさらに受けることが予想されます。コーポレートファイナンス事業のパイプラインも十分な数に達しています。しかし、フィナンシャルマーケット事業の先行きはやや不透明です。これらの動きを背景に、のれん代減損・自己クレジット調整を除く一方、英国銀行税の影響を考慮に入れると、2014年度通期の税引き前利益は2013年度通期を下回ると予想しています。ただし、2014年度下半期の税引き前利益に限ると、前年同期を上回ると予想します。

当行グループは、短期的な問題に対応する一方、主要市場であるアジア・アフリカ・中東地域の高い潜在能力はもとより、お客様の投資・貿易・資産形成の促進に資する当行の競争力に揺るぎない確信を持っています。

上半期決算の発表は 8 月 6 日を予定しています。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Investor queries +44 (0)20 7885 7151

Sarah Lindgreen, Media queries +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測される出来事に基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来の出来事や情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。